



日本

の源流再発見

File 21

愛知県常滑市

伝統と新しさが共存する町



日本六古窯の一つ常滑焼の産地、愛知県常滑市。急須、土管、焼酎瓶などの実用品を得意とし、他の5産地とともに日本遺産「きつと恋する六古窯—日本生まれ日本育ちのやきもの産地—」に認定されています。市内には中部国際空港 セントレアもあり、伝統と新しさが共存する町です。

登窯（陶業窯）

レンガ煙突と土管が形づくる独特な町並み

とこなめ
常滑焼の産地である愛知県常滑市は、焼き物の町らしく多くのレンガ煙突が残る独特の町並みが形成されています。今は使われていない煙突も多いようで、なかには木が生えている煙突も。土管や焼酎瓶などを利用した路面や土留壁も特徴的で、土管坂などの人気スポットが多数あります。このような町並みを楽しめる「常滑やきもの散歩道」も整備されており、地図を片手に歩く観光客が絶えません。

名鉄常滑駅を降りて、やきもの散歩道へ向かう途中にあるのが「とこなめ招き猫通り」。常滑市は国内最大級の招き

猫の生産地で、常滑市のゆるキャラも招き猫「トコタン」です。招き猫通りには夫婦円満や安産など、テーマごとの「ご利益招き猫」があり、39名の陶芸家による個性的な作品が並んでいます。

一般に招き猫の左手は人を招き、右手は金を招くといわれています。「ご利益招き猫」が飾られた壁の上にいる巨大な招き猫「見守り猫とこにゃん」は、常滑を代表して人を招き、多くの人やモノとのつながりも招いています。「とこにゃん」を見つめる本物そっくりの等身大陶製ねこも愛らしい仕草を見せています。

やきもの散歩道には、廻船問屋 瀧



見守り猫とこにゃん

田家があります。常滑のある知多半島は、伊勢湾周辺地域と上方、江戸の両方を結ぶ地の利があり、名産品である常滑焼の輸送を含む廻船業が大いに栄えました。瀧田家は、その廻船主の一つ。見事な屋敷に加え、無尽灯（菜種油を用いた灯火具）、和船の模型など当時の廻船問屋の様子をうかがい



▲ とこなめ陶の森資料館

国指定重要有形民俗文化財である「常滑の陶器の生産用具及び製品」1,655点のうち約300点が展示されています。平安時代から続く常滑の人々と焼き物との関わりを学べます



▲ 土管坂

向かって左には土管が、右には焼酎瓶が土留めとして利用された坂道です。路面には滑り止めとして、焼台が埋め込まれています



▲ 廻船問屋 瀧田家

瀧田家は江戸時代から明治時代にかけて廻船問屋を営んでいました。現在の建物は、1850年ごろに建築された建物を復元・整備したものです。江戸中期の住宅形式を踏襲しています



▲ 陶彫のある商店街

商店街の陶彫作品。ここには1970年の大阪万博に出品された常滑焼の「月の椅子」も設置されています

知ることができます。

瀧田家の南方面には、1887年ごろから1974年まで使用されていた登窯（陶築窯）があります。約20度の傾斜地に8つの焼成室を連ねており、国内で現存する登窯としては最大級。最上部には10本の煙突を備えています。国の重要有形民俗文化財に指定されており、周囲を見学することができます。また、陶彫のある商店街には、ポストの上の郵便配達猫など約150体の陶彫がそこかしこに。これを見ながら散歩するだけでも楽しい気分になります。

常滑駅から徒歩で約30分のところ

に、とこなめ陶の森があります。ここには、資料館、陶芸研究所、研修工房があり、一帯は陶芸のオブジェなどが散在する小径になっています。研究所からは、多くの研修生が巣立っており、なかには世界で活躍する陶芸家もいます。

※ 粘土を直接成形し彫刻を施したもの

日立グループ事業所紹介

今回訪れた愛知県には日立建機日本株式会社 常滑営業所があります。「建設工用機械・器具を借りたい、買いたい、直したい」というお客さまのニーズに総合的に対応できる会社として、建設機械、運搬機械などのリース、販売、修理、アフターサービスなどを行っています。

日立建機日本株式会社 中部支社 愛知三重支店 常滑営業所 愛知県常滑市本郷町4-202
<https://japan.hitachi-kenki.co.jp/>

ココに注目

土管坂休憩所は、市内のトイレメーカー3社の協力により新型のトイレを完備。女性にはゆったりしたパウダールームもお勧め。

